

2021年3月21日(日)朝10:10

受難節第5、自由交歓会等

3月第3復活前第2共同主日礼拝式説教

日本アライアンス庄原基督教会

説教題：**主よ、憐れんでください(30～)**

聖書：マタイ 20章27～34節

<口語訳>

新約聖書29～ 頁

マタイ 20章27～34節

<新共同訳>

新約聖書35～ 頁

マタイ 20章27～34節

<新改訳第3版>

新約聖書36～ 頁

マタイ 20章27～34節

<塚本訳>

新約聖書123～ 頁

主題：主イエス様から賜った聖霊の導き

によって主の弟子たちは、主の名による
神の罪からの救いを宣べ伝えたように、
私たちも、福音を伝えたい。

序論；

- ◇**マタイ書**は、使徒**マタイ**が、ユダヤ人の立場で**王なる救い主(メシヤ)**なる**神の御子イエス・キリスト**を証言した記録です。
- ◇**マタイ5～7章**は、**神の御子イエス・キリスト様**の山上の垂訓・説教と表現される箇所です。
- ◇本日は、**マタイ20:27～34節**の箇所から、「**神(天)の国**」「**神の真理・真実**」の隠された奥義を心にとめたいと思います。
- ⇒「**主よ、憐れんでください(30～)**」は、先週の「**皆に仕え、主のしもべに徹せよ(26～28)**」を受けて、弟子たちに語って下さった霊のいのちを失わないようにとの戒めを与えてくださったのです。
- ⇒「**主よ、憐れんでください(30～)**」は、2人の盲人が、エリコで、主に願い求めたことばです。
- ⇒主は、「**憐れんで・かわいそうに思って**」、彼らの目に触り、その目を開いて下さいました。
- ⇒主は、「**人の子が来たのは、仕えるため、自分のいのちを与えるため**」と、仰せになった後でした。

本論；

◇本日、**マタイ書20章27～34節**から主の**使信**に**思い・心**νοῦς(nouj)をとめます。

◆**マタイ20章27～34節**；**使徒マタイ**は、
「**主よ、憐れんでください**(30～)」との2人の盲人の叫び求めのことばを通して、「**神(天)の国**」の隠されている「**神の真理・真実**」を示しています。

◇**マタイ20:27～34節**；**塚本訳**◆

ゼベダイの子らの野心<27～28>

27 一番上になりたい者は奴隷になれ。

28 人の子(わたし)が来たのも仕えさせるためではない。仕えるため、多くの人をあがない金としてその命を与えるためである。」

◆**エリコの盲人**<29～34>

29 一行がエリコ(の町)を出ると、大勢の群衆がイエスについて来た。

30 すると二人の盲人が道ばたに坐っていたが、イエスのお通りだと聞くと、「主よ、**ダビデのお子様よ、どうぞお慈悲を**」と言って叫んだ。

31 群衆が叱りつけて黙らせようとしたが、二人はますます大声で、「主よ、**ダビデのお子様**

よ、どうぞお慈悲をと言って叫んだ。

32 イエスは立ち止まって、二人を呼んで言われた、「何をしてもらいたいのか。」

33 彼がこたえる、「主よ、目があくといい。」

34 イエスが不憫に思ってその目にさわられると、すぐ見えるようになって、イエスについて行った。と、**使徒マタイ**は主のことばを語っています。

◇**マタイ20:27~28**；「一番上になりたい者は奴隷になれ(27)。」、「人の子(わたし)が来たのも仕えさせるためではない。仕えるため、多くの人をあがない金としてその命を与えるためである。」(28)」と、「**御子イエス・キリスト様**」は、弟子のゼベダイの子たちと母が、御国で、主の右と左に着く者にしてほしいと願った時、「一番上になりたい者は奴隷になれ(27)」と語られ、主は、ご自身の人となられた役目を示し、「仕えるため、多くの人をあがない金として命を与えるためである」と、仰せになったのです。

⇒主と全く同じではなくとも、キリスト者は、何らかの苦難を負いつつ、主にお従いします。

◇**マタイ20:29~34** ;「一行がエリコ(の町)を出ると、大勢の群衆がイエスについて来た(29)」、「すると二人の盲人が道ばたに坐っていたが、イエスのお通りだと聞くと、「主よ、ダビデのお子様よ、どうぞお慈悲を」と言って叫んだ(30)」、「群衆が叱りつけて黙らせようとしたが、二人はますます大声で、「主よ、ダビデのお子様よ、どうぞお慈悲をとって叫んだ(31)」、「イエスは立ち止まって、二人を呼んで言われた、「何をしてもらいたいのか。」(32)」、「彼がこたえる、「主よ、目があくといい。」(33)」、「イエスが不憫に思ってその目にさわられると、すぐ見えるようになって、イエスについて行った(34)」と、「**御子イエス・キリスト様**」は、エリコの町で、ついて来た2人の盲人を群衆が黙らせようとしたにもかかわらず、「何をしてもらいたいのか」と問い、「主よ、目があくといい(新改訳2017;目をあけていただきたいのです)」と、願うと、「不憫に思って、目にさわられる」と、「すぐ見えるようになってイエス様についていった」のです。

⇒主の弟子たちが、誰が偉いか問うた時でした。

- ⇒主は、「偉くなりたいと思うなら、みなに仕えるものになりなさい」と言い、「人の子(わたし)が来たのが、仕えられるためではなく、かえって仕えるためであり、多くの人のための贖いの代価として与えるためである(新改訳2017)」と、弟子たちにお答えてです。
- ⇒盲人の癒しの奇蹟は、これまでと同様、弟子たちを教育して、主の憐れみの心・思いを伝えるでした。
- ⇒盲人の一人は、バルトロマイ(ナタナエル)と、伝えられ、弟子の一人になった(ついて行った)のですが、群衆のお叱りにめげず、「主よ、憐れんでください。目をあけていただきたいのです」と、叫びつづけ、その願いをかなえられ、主にお従いしたのです。
- ⇒**SY師**は、①「ダビデの子よ」と呼んで、イエスの真髓を正しく見抜いていた、彼らの信仰の素晴らしさがあった、②その信仰の立派さは、その願いの執拗さにある、③彼らの信仰の特色は、ダビデの子なるイエスが、「わたしを憐れんでくださる」に違いないと、望みつづけた点にあります。

- ⇒この記事は、マルコ、ルカ福音書にもあり、どちらも、「あなたの信仰があなたを救った」というイエスのことばで、盲人が癒されたとなっています(マルコ10:52、ルカ18:42)。
- ⇒群衆は、ナザレから出た預言者イエスであるという程度に受けとめていたのです。
- ⇒それに対して、盲人らは、『ダビデの子イエスよ』と、叫び出したのです(20:30, 31;マルコ10:47)。
- ⇒全てのキリスト者が、“わたしの信じる主キリストは、どんなことがあっても離すものか”という執念を持ちつづけていたら、教会から脱略して人の数は、半減するに違いありませんと、**SY師**は、仰せです。
- ⇒「わたしに何をしてほしいのか」との呼びかけに、盲人らは、大事な上着を投げ捨てて、躍り上がって、主のもとに来たのです。
- ⇒**SY師**は、人はそれぞれ職業をもっています。「わたしに何をしてほしいのか」と、問われるキリストに答えるものを持っていないてはなりませんとも、仰せです。

⇒盲人らは、目をあけてもらったということにとどまらず、霊の目も開かれ、主について行ったのです。第1目標で終わらず、新しい目標を見出し、弟子の衣を着て、新しい生活、物乞いの生活から主と生きる生活へ変革していただけたのです。

⇒「深く憐れまれた」は、「腹わたから揺り動かされる」と、非常にはげしい同情心を表します。

⇒**マタイ9:13**；【口語訳】

13 『わたしが好むのは、あわれみであって、いけにえではない』とはどういう意味か、学んできなさい。わたしがきたのは、義人を招くためではなく、罪人を招くためである」

結論；

◇神は、変わらない愛と思いやりの神です。

◇マタイ書は、使徒マタイが、ユダヤ人の立場で王なる救い主(メシヤ)なる神の御子イエス・キリストを証言した記録です。

◇マタイ5～7章は、神の御子イエス・キリスト様の山上の垂訓(説教)の箇所です。

◇本日は、**マタイ20:27～34節**の箇所から、「**神(天)の国**」「**神の真理・真実**」の隠された奥義を心にとめたいと思います。

⇒「**主よ、憐れんでください(30～)**」は、先週の「**皆に仕え、主のしもべに徹せよ(26～28)**」を受けて、弟子たちに語って下さった霊のいのちを失わないようにとの戒めを与えてくださったのです。

⇒「**主よ、憐れんでください(30～)**」は、2人の盲人が、エリコで、主に願い求めたことばです。

⇒主は、「**憐れんで・かわいそうに思って**」、彼らの目に触り、その目を開いて下さいました。

⇒主は、「**人の子が来たのは、仕えるため、**

自分のいのちを与えるため」と、仰せになった後でした。

⇒ヘブル4:14～16;【口語訳】

14 さて、わたしたちには、もろもろの天をとおって行かれた大祭司なる神の子イエスがいますのであるから、わたしたちの告白する信仰をかたく守ろうではないか。

15 この大祭司は、わたしたちの弱さを思いやることのできないようなかたではない。罪は犯されなかったが、すべてのことについて、わたしたちと同じように試練に会われたのである。

16 だから、わたしたちは、あわれみを受け、また、恵みにあずかって時機を得た助けを受けるために、はばかりことなく恵みの御座に近づこうではないか。

⇒最も、貧しさや痛み、苦難をご存じなのは、主ご自身です。

⇒主ご自身が、今日も、深い同情心を持って、「わたしに、あなたは、何をしてほしいのか」と、お尋ねです。

⇒「主よ、私を憐れんでください」と、祈り、讚美し、礼拝させていただきましょう。目標がはっきり

していなくても、躊躇する必要はありません。
⇒最も必要なのは、憐れみの主が、何時も共に
おられ、慈しみ、恵みをもって、問いかけ
続けてくださっているこいを信じることです。